



1983年（昭和58年）に新入社員として名興発條株式会社に入社。これまで品質保証部門や製造現場、技術チームなどさまざまな部門に在籍し、技術を磨きながら会社に貢献してきた。2024年10月に定年退職して、現在は嘱託社員として活躍中。今回は、これまで印象に残っている仕事や、職務への思いについて伺った。

前代末間のチャレンジ

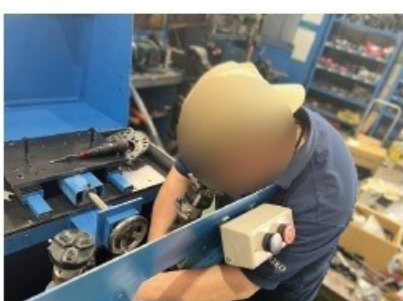
長年の経験の中で一番印象に残っているのは、入社5年目に担当した仕事。製造部門に異動したばかりで、生産ラインの改善を任せられた。当時は、ウサギ追い方式（1つの作業が滞り次の工程に影響が出ないように、全プロセスがウサギを追いかけるように

次々と動く方式）で運営していた。しかし、より効率的に作業を進めるために大幅に変更することを決断する。

これまで2つだった生産ラインを大胆に1つにして、工程を再配置。従来のウサギ追い方式を廃止し、直線で流れるように変えていった。さらに、作業ごとに仕事量のバランスを調整し、メンバー全員が無駄のない動きができる環境を整えていく。その結果、17秒かかっていた作業時間が、約11秒に短縮。生産効率は、200%もアップしたのだ。

ライン変更は、大規模で勇気のいる取り組みのため、これまで誰も挑戦しなかったのだが、入社5年目の若手社員が達成。もっとも、取り組みがうまくいったのは協力してくれた仲間たちのおかげだと思っている。「仕事は一人ではできない」という考え

Company Interview



▲作業風景

に基づき、自身のアイデアや努力によって大きな成果が出たように見える場合でも、常に周囲への感謝を忘れないことを心がけているのだ。

「これでよし」を疑う！

仕事の質を高める思考

18歳で入社し、定年退職まで勤め上げてきた。背景にあるのは、「会社の繁栄が第一」という思い。そのような中でとくに注力してきたのが、業務改善だ。

転機となったのは、30代で改善室の立ち上げメンバーに選出されたこと。当時、代表取締役社長を務めていた前社長（橋谷 良雄）の呼びかけによって始まった、大きなプロジェクトだった。最初のミッションは、アイシン精機株式会社（現株式会社アイシン）の研修に約3か月間参加し、トヨタ生産方式を習得すること。とても濃密な時間を過ごし、この経験はその後の業務にも大きな影響を与えたという。

「改善活動において大切なのは、『現状のままで良いのか』と常に問い続ける姿勢だと考えています。疑問をもって作業内容や工程を見直すことで、より良い方法が見つかるのではないのでしょうか。」

みんなのために動ける人

難しいミッションにも積極的に取り組むモチベーションは、誰かの役に立ちたいという思いから生ま

れている。小学校の卒業文集には、「ウルトラマンになりたい」という夢を書いた。キャラクターに憧れていたわけではなく、ウルトラマンのように人々を助けたいと思ったからだ。この考え方は大人になってからも変わっておらず、組織や周囲の人々に貢献したいという気持ちが、仕事への活力になっている。

また、前向きにチャレンジできたのは、会社や上司が後押ししてくれたことも大きな要因だと感じている。社員のアイデアを取り入れる度量や、チャレンジを歓迎する社風があったからこそ、これまで続けてこられたのだ。

心身健やかに、経験を次代へ繋ぐ

定年退職を迎え嘱託社員として勤務している現在は、体調管理に気を付けて日々生活をしている。できれば65歳まで働きたいと考えており、健康で長生きするのが今の目標だ。在職中は、これまで培ったスキルを若手社員へ伝えていき、ノウハウを継承したいと考えている。

最後に、「現状に満足せず、常に改良する意識をもって業務に取り組んでほしいと思っています。わからないことがあったら、いつでもご質問ください」と、若手社員へメッセージを送った。名興発條での充実した日々に感謝しつつ、今日も真剣な眼差しで現場を見つめている。



▲若かりし頃

ってどんな人？

今回は、製造グループの社員から、ものづくりにおける発想力と具現化力を兼ね備えた若頭インタビュー対象者について語っていただきました！

Q1. さんとの関係性

先生と生徒のような関係です。仕事内容が近いことから、わからないことなどを定期的にご指導いただいています。

Q2. 一言で表すと

改善のスペシャリスト

現場からの問題点に対して、改善案を出す速さ、そしてその案を実行に移すまでの速さが、圧倒的に速いと感じています。

Q3. 思い出エピソード

産業ロボットを使用した自動化

2人で産業ロボットを使った作業の自動化を進めたことが、特に印象に残っています。分担して作業を進め、完成にこぎつけましたが、実際に動かしてみると予期せぬ問題が発生。私が相談すると、すぐに解決策を提示してくださいました。その知識の豊富さと、すぐに行動に移せる力に、深く尊敬の念を抱いています。

Q4. メッセージ

もうすぐ暑い夏が訪れますので、熱中症などお体に気を付けてください。いつまでも元気に、一緒に仕事をしていただきたいと思います。

特定技能実習生紹介

日本での仕事と生活に情熱を傾ける技能実習生を紹介！仕事にける熱い想いと、日本での生活で感じた驚きや楽しみについて、フレッシュな視点からお話をいただきました。

線ばね1班

趣味・好きなこと

料理が趣味で、特に日本料理を作るのが大好きです。得意料理は天ぷらで、京でよく作っています。焼肉やお寿司、日本のビールも大好き。中国のビールとは味が全く違い、本当に美味しく感じます。

日本の好きなところ

一番驚いたのはカラスの大きさです！特に丁寧語の使い分けには今でも戸惑っています。しかし15年間日本で生活する中で、かなり話せるようになったと実感しています。一番良かったのは、日本の友人がたくさんできたこと。以前は難しかったコミュニケーションも、今ではスムーズに、そして楽しくできるようになりました。仕事でのやり取りはもちろん、プライベートでも友人との会話が増え、日本での生活がより豊かになったと感じています。

自分の性格を一言で表すと？「明るい」

おしゃべりが好きで、友達も多い方だと思います。また、あまり緊張しない性格でもあります。

今後の目標

たくさん仕事をして、お金を貯められるように頑張ります。

社員の皆様へメッセージ

多くの仕事を経験し、早く仕事を覚えて技術を習得したいと思っています。どうぞよろしくお願いします！



仕上げ・アッシー班

趣味・好きなこと

「嵐」のコンサートに行くことです。実はファンクラブにも入っており、2025年末から始まる最後のコンサートも、今からチケットの抽選を楽しみにしています。

日本の好きなところ

街がとてもきれいでゴミが少ないことに一番驚きました。道端にほとんどゴミが落ちておらず、空気の澄んだ環境が好きなところの一つです。

自分の性格を一言で表すと？「誠実で真面目」

仕事に対して常に真摯な姿勢で取り組むことを心がけています。

今後の目標

N2に合格すること、一生涯懸命に働いていきたいです。

社員の皆様へメッセージ

日本の技術をしっかりと身につけていけるよう頑張っています。入社してまだ2か月ですが、これから3年間どうぞよろしくお願いします。

海外人材奮闘記！

故郷を離れ、名興発條で挑戦を続ける社員を紹介します。今回紹介する2名の前向きな姿勢を活かし、さらに成長していくための「次の一歩」を一緒に考えてみませんか？

挑戦してよかったと感じること

2010年に来日した頃は、日本語があまり得意ではありませんでした。上司の指示が理解できないことも多い中で頑張ったことが一番の挑戦だったと感じています。努力し続けた結果、少しずつ日本語が上達していききました。

挑戦後の変化

日本での生活が楽しく豊かに！

日本語の文法は難しく、特に丁寧語の使い分けには今でも戸惑っています。しかし15年間日本で生活する中で、かなり話せるようになったと実感しています。一番良かったのは、日本の友人がたくさんできたこと。以前は難しかったコミュニケーションも、今ではスムーズに、そして楽しくできるようになりました。仕事でのやり取りはもちろん、プライベートでも友人との会話が増え、日本での生活がより豊かになったと感じています。

現在の課題と今後の目標

ハイレベルな技術の習得とN1合格

もっと複雑な仕事に挑戦したいと考えています。例えば、今は簡単な「カシメ」という機械を使っていますが、もっとレベルの高いねの機械など、複雑な機械操作を習得したいです。難しい仕事の方が「やりがい」があり、面白いと感じます。今後の目標は、7月6日に受験するN1に合格すること。N2とは全く違うレベルです。特に文法が苦手ですが、一発合格を目指して必死に勉強していきます。



仕上げ・アッシー班

挑戦してよかったと感じること

現在のばね製造業務は、未経験からの挑戦でした。機械加工の経験はありましたが、使用する機械もプログラムも全く異なり、知識とスキルを一から学び直す必要がありました。この経験を通じて多くのことを習得し、変化に対応する自信がついたと感じます。

挑戦後の変化

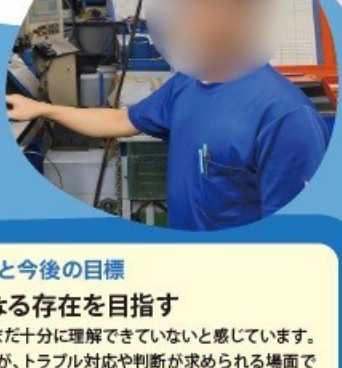
この業務を始める前は、新しいことに対して不安を感じることもたくさんありました。今でも学ぶべきことは多いですが、以前より落ち着いて物事に向き合えるようになり、自ら調べたり、周囲に相談したりする姿勢が身についてきたと実感しています。まだまだ成長途中ですが、前向きな気持ちを大切に努力を続けたいと思います。

現在の課題と今後の目標

判断力を向上させ、頼りになる存在を目指す

製品の構造や技術的な工程については、まだ十分に理解できていないと感じています。機械の操作には少しずつ慣れつつありますが、トラブル対応や判断が求められる場面では、戸惑うこともあります。技術的な知識だけでなく、現場での経験もさらに積む必要があると感じています。先輩方の作業をよく観察したり、自分から質問したりしながら、毎日少しずつ学ぶ心がけています。

今後の目標は、製造工程や製品構造についての理解をさらに深め、より正確で効率的に仕事ができるようになることです。困ったときに頼ってもらえるような存在にもなれるよう、職場でのコミュニケーション力、特に日本語でのやり取りも向上させ、少し努力を重ねていきます！



線ばね